

12歳教育推進事業

第3回 子ども防災サミット 開催

子どもたちが取り組んだ 防災教育の成果を発表

防災教育を基軸として、子どもたちの社会性を伸長させようとして取り組んできた「12歳教育推進事業」。その総括ともいえる「第3回子ども防災サミット」が、2月9日(金)に総合文化会館で開催されました。

その模様と、これまでの取り組みについて紹介します。



[A]

12歳教育推進事業とは？

市では災害に強いまちづくり、仕組みづくりをめざし、現在全庁あげて実践防災計画を進めています。その一環として、平成18年度から小学校6年生を対象に、12歳教育推進事業を行ってきました。

この事業は、人生の一つの節目である小学校6年生の時期にさまざまな体験を通して、確かな社会性を養わせるとともに、将来の西条市を担う若者の育成を目的とするものです。

今年度実施した「子ども防災サミット」は、12歳教育の根幹を成すもので、市内26小学校から代表児童60名が集まり、防災に関する各校の実践を発表したり、意見交換したりしながら、思考力・判断力を高め、生きて働く防災力を身に付けることをねらいとしています。

第1回子ども防災サミット

昨年7月26日に開催された第1回のサミットでは、自己紹介や学校自慢、各小学校の特色ある防災への取り組みなどが発表され、防災に対する認識や学校相互間の理解を深めました。

防災先進地研修

夏休みを利用して、昨年8月11日・12日に1泊2日の日程で神戸・淡路の防災先進地研修を行いました。

研修には60名の代表児童のほか、自主防災組織関係者などが参加して「人と防災未来センター」「北淡町震災記念公園」などを見学しました。

両施設は、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を生かそうと整備されたもので、参加者は地震の被害の大きさに驚くとともに、震災後の人々の復興へかける思いや努力、備えの大切さなどを学びました。

第2回子ども防災サミット

昨年12月26日に開催された第2回子ども防災サミットでは、



▲「自分の命の大切さ」「地域とのつながりの大切さ」など、それぞれが防災学習などで学んだことを発表しました。(第3回子ども防災サミットにて)

西条市地域防災計画が完成

昨年11月27日に開催された西条市防災会議で作成した「地域防災計画」が、12月28日に愛媛県の承認を得ました。

この計画は、市内で発生する災害に対し、総合的かつ計画的な防災対策を推進し、災害による被害を軽減するための備えとして、地域ならびに市民の生命、身体および財産を災害から保護することを目的として作成されました。

市は、この計画に基づいて災害対策を進めていきます。

地域防災計画の主な重点項目

- ① 自主防災組織の育成強化
- ② ボランティアによる防災活動
- ③ 市独自の避難所指定基準や福祉避難所の指定
- ④ 避難勧告などの判断基準

問合せ 市庁舎本館危機管理課

TEL 0897-5615151

(内線3122)



地域防災計画は「風水害等対策編」「震災対策編」「資料編」の3編につづられています。これらについては、市のホームページで公表しているほか、市庁舎本館危機管理課と各総合支所総務課で閲覧できます。